

## D. N. Hendrickson 教授と J. K. McCusker 博士

(1991年5月21日～6月4日滞在)

米国NSFと日本学術振興会が、カリフォルニア大学サンディエゴ校の Hendrickson 教授グループとマイクロ熱研究センターのわれわれのグループとの日米科学協力事業共同研究を支援してくれることになり、平成3年度より2年間、相互訪問が可能となった。この基金で、Hendrickson 教授と McCusker 博士が初夏の2週間を、当マイクロ熱研究センターで過ごされた。われわれの共同研究は、「相補性に主眼を置く」ことを最大の特徴としている。メスバウアー分光、EPR、NMR、磁気測定、構造解析を米国側で行ない、熱測定と赤外・ラマン分光を日本側で行なっている。研究の目標は同じであっても、研究手段が異なるので競合することがなく、双方のメリットは大変大きい。実質的な共同研究が開始されたのは1984年であり、その内容は多岐にわたっているが、これ迄に何のトラブルもなく順調に共同研究が進展しているのは、この相補性の重視にある。

さて、Hendrickson 教授の来日は今回が3度目（阪大へは2度目）、McCusker 博士は初めてである。Hendrickson 教授は、アルコールが入ると結構ユーモアあふれる話をされるが、普段は研究の話一徹といった方である。McCusker さんは博士号取りたての新進気鋭の若者で、マイクロ熱研究センターの学生諸君と賑やかに話がはずんでいた。若者気質は洋の東西を問わないのであろう。趣味はシンセサイザーを用いて交響曲を合成録音することと、蛇の飼育。夏に訪米した際、彼の下宿で蛇を見せられた時には一瞬たじろいってしまった。帰国のお土産に、忍者コスチューム



写真1 金森理学部長（現大阪大学総長）を敬訪問された  
Hendrickson 教授（中央）と McCusker 博士。



写真2 夕食会風景。左から順に、大野 健、中村 晃、Hendrickson、菅 宏、鈴木晋一郎、海崎純男、McCusker 博士、徂徠道夫、松林玄悦の各教授。

を嬉々として購入し、日本が大変気に入った様子であった。

写真1は、来学の挨拶に金森順次郎理学部長（現大阪大学総長）を表敬訪問された時のものである。われわれの共同研究は磁性体が主となっているため、超交換相互作用に関する Goodenough－金森則の恩恵を日頃受けており、すっかりうちとけてなごやかな会見であった。

写真2は、Hendrickson 教授講演会の後、催された夕食会でのスナップである。錯体関係者以外にマイクロ熱研究センター長の菅教授に加わっていただいた。研究の話に加えて両国の研究教育制度の在り方など、よもやま話で楽しいひとときであった。

（徂 徠 記）